

平成 22 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分 類] 普及技術

[成果名] レタスのオオタバコガ防除にアニキ乳剤が有効である

[要 約] レタスのオオタバコガ防除にアニキ乳剤の 2,000 倍液を散布する。非結球レタスは含まない。

[担 当] 野菜花き試験場佐久支場・環境部

[部 会] 病虫部会

1 背景・ねらい

オオタバコガは本県の夏秋作レタスにおいて最も被害の大きい難防除害虫である。本種を防除するための効果の高い薬剤を選定するとともに、レタスに対する薬害の有無を検討する。試験は平成15～16年に実施し、平成22年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) レタスのオオタバコガ防除にアニキ乳剤の 2,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

アニキ乳剤

[一般名および成分含有量] レピメクチン 1.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] C 類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 22 年 10 月 8 日 JPP-NET 確認）]

作物名	適用害虫名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法
レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ	1,000 ~ 2,000 倍	100 ~ 300 L / 10 a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は新規の殺虫剤である。本剤は抑制性神経系に作用し、処理後の害虫は速やかに摂食を停止し、その後死に至る。
- (2) レタスにおけるオオタバコガの防除適期は、結球開始期前後が重要であるので、フェロモントラップによる発消長を参考に、適期を逸さないように散布する。
- (3) 本剤は蚕に対して影響があるので、桑葉にかからないように注意する。
- (4) 本剤は水産動植物（甲殻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼および養殖池に飛散・流入するおそれのある場所では使用しない。
- (5) ミツバチ、マルハナバチに対して影響を与える場合があるので、ミツバチ等の巣箱およびその周辺にかからないようにする。
- (6) 眼に対して刺激性があるので注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) 平成 15 年は少発生条件下の試験となった。本剤 2,000 倍液のレタスのオオタバコガに対する防除効果は、ハクサップ水和剤 1,000 倍液と比較して同等の防除効果であり、無処理と比較して高い効果が認められた。薬害は認められなかった（表 1 ）。

表1 オオタバコガに対するアニキ乳剤の防除効果（平成15年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈 倍数	調査 株数	被害株率 (%)	被害度	防除価	薬害
アニキ乳剤	2,000	20.0	1.7	1.1	95.7	なし
ハクサップ水和剤	1,000	20.0	3.3	3.3	87.1	なし
無処理	-	20.0	30.0	25.6		

値は3区の平均値

試験場所：野菜花き試験場佐久支場 場内圃場 品種：「からさわ」 定植：8月6日

区制・面積：1区8.1㎡、72株/区、3連制 対象害虫の発生状況：少発生

処理方法：8月20日（結球前）、27日および9月3日の3回、所定濃度の薬液（展着剤無加用）を10aあたり300L散布した。

調査方法：最終散布13日後の9月16日（収穫期）、各区中央部の20株について、オオタバコガ幼虫による被害の有無を程度別に調査した。薬害は肉眼観察によった。

被害程度別基準

無：被害が認められない。小：外葉に食害痕が認められる。中：結球葉にわずかな食害痕が認められる。

大：結球内部に食害痕が認められる。

被害度 = $((小 \times 1 + 中 \times 2 + 大 \times 3) / (調査株数 \times 3)) \times 100$

防除価 = $100 - (処理区被害度 / 無処理区被害度) \times 100$

(2) 平成16年は中発生条件下の試験となった。本剤2,000倍液のレタスのオオタバコガに対する防除効果は、対照のハクサップ水和剤1,000倍液と比較して効果が劣るものの、無処理と比較して効果が認められた。薬害は認められなかった(表2)。

表2 オオタバコガに対するアニキ乳剤の防除効果（平成16年、野菜花き試験場環境部）

供試薬剤	希釈 倍数	調査 株数	被害株率 (%)	被害度	防除価	薬害
アニキ乳剤	2,000	30.0	8.9	10.0	85.0	なし
ハクサップ水和剤	1,000	30.0	0	0	100	なし
無処理	-	30.0	70.0	66.7		

値は3区の平均値。被害度、防除価の算出方法は表1参照。

試験場所：野菜花き試験場 場内圃場 品種：「パトリオット」 定植：9月13日

区制・面積：1区8㎡、50株/区、3連制 対象害虫の発生状況：中発生

処理方法：9月26日（結球前）、10月3日および10日の3回、所定濃度の薬液（展着剤無加用）を1回目100L/10a、2回目150L/10a、3回目200L/10aの割合で散布した。

調査方法：最終散布8日後の10月18日（定植35日後）、各区30株について、オオタバコガ幼虫による被害の有無を程度別に調査した。薬害は肉眼観察によった。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験（佐久支場）、平成15年度（2003年度）、県単素材開発

野菜・花きの病害虫防除農薬の効果試験（環境部）、平成16年度（2004年度）、民間受託